

ぎふ未来音楽展2018 プレ・コンサート@美術館

音響 室内楽

OTO MO NAKU UGOKU MONO

福島 諭
板倉 康明
(特別出演)
濱地 潤一
飛谷謙介
福島 麗秋

1: 尺八とコンピュータのための《季鏡》('17-'18)

作曲: 福島 諭 尺八: 福島 麗秋

2: ソプラノ・サクソフォンとコンピュータのための《respice finem》('16)

作曲・サクソフォン: 濱地 潤一 realization: 福島 諭

3: クラリネットとコンピュータのための《patrinia yellow》('13)

作曲: 福島 諭 クラリネット: 板倉 康明

4: 《gp》('18)

作曲・演奏: gp

2018

9.2

(日) 15:00開演

岐阜県美術館 多目的ホール
入場無料

主催・お問合せ: 岐阜県美術館 / 058-271-1313

サラマンカホール / 058-277-1113

“コンピューターのリアルタイム処理と生楽器との対話”

ここから始まる、音楽と未来の冒険!

サントリー芸術財団推薦コンサート(8月)に決定!

ぎふ未来音楽展～ガラ・コンサート&シンポジウム

2018年9月9日(日) サラマンカホール 全席自由2,000円(サラマンカメイト1割引)

14:00-15:30 ガラコンサート「未来へのファンファーレ」 16:00-18:00 シンポジウム「1000年後の世界と未来の音楽」

福島諭:《CRACK》for trumpet and computer(世界初演) ほか

音響 室内楽 ～ OTO MO NAKU UGOKU MONO

コンピュータ処理が高速化し、個人の所有するラップトップの範囲内でリアルタイムに音響処理を行えるようになって既に20年近い時間が経過しています。作曲家・福島論は2002年よりコンピュータのリアルタイム処理と生楽器とのインタラクティブな関係性によって成立する楽曲の発表を開始、それ以降そうしたスタイルの作曲に長い時間を費やしてきました。時間は常に経過していきます。それを我々は行うこともできませんが、生楽器の演奏情報（音色、アーティキュレーション）を取り込みそれをリアルタイムに変調させて楽曲の全体を構成していく作曲方法を通して、コンピュータを使用した音楽であっても、奏者の息づかいに寄り添いながら時間との対峙にも極めて誠実な室内楽の在り方があり得るはずだと考えて来ました。今回は福島論の室内楽曲に加え、これまで同じスタイルの作品を福島と共に制作してきた濱地潤一の作品、また福島、濱地に飛谷謙介を加えた3名によるグループ「gp」による新作演奏も予定しています。

福島論

福島論 / Satoshi Fukushima / Composer /

1977年新潟生まれ。新潟大学教育学部特別教科(音楽)教員養成課程卒業。岐阜県立情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修士課程修了。作曲家. 2002年よりコンピュータ処理と演奏者との対話的な関係によって成立する作曲作品を発表。また、即興演奏とコンピュータによる独自のセッションを試みるバンドMimizのメンバー、濱地潤一氏との交換作曲作品《変容の対象》は2009年より開始され現在も作曲中である。2016年、G.F.G.S.レーベルよりCD「室内楽2011-2015」をリリースした。賞歴に2014年第十八回文化庁メディア芸術祭「アート部門」優秀賞など。日本電子音楽協会理事(2017-)。作曲を三輪眞弘氏に師事。www.shimaf.com

板倉康明 / Yasuaki Itakura / Clarinet /

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て東京藝術大学音楽学部卒業。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ市立音楽院、パリ国立高等音楽院を卒業。故アンリエット・ピュイグ＝ロジェ氏から深い薫陶を受け、現在の多彩な演奏活動の礎を築いた。クラリネット奏者、指揮者としてのレパートリーは広範囲に渡り、特に世界初演を含む内外の現代作品の演奏には各方面から高い評価を得ている。2001年より東京シンフォニエッタ音楽監督指揮活動で日本音楽コンクール委員会特別賞、第18回中島健蔵音楽賞を受賞。国立音楽大学客員教授。

福島麗秋 / Reisyu Fukushima / Shakuhachi /

1948年生まれ。群馬県出身。新潟大学卒業後教員となる。村松流尺八師範、都山流尺八准師範。学校への邦楽出前授業、福祉施設慰問、岩室基句を中心とした民謡の保存・伝承活動を実施。近年、伝統・混沌と光をテーマに現代音楽とのコラボレーションにも取り組む。

飛谷謙介 / Kensuke Tobitani / Researcher, Noise guitarist /

2002年早稲田大学理工学部応用物理学科卒業。2004年岐阜県立情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修士課程修了。作曲を三輪眞弘に師事。JST地域結集型共同研究事業特別研究員を経て、2010年岐阜大学大学院工学研究科博士後期課程修了。同年岐阜大学産官学融合本部研究員。2014年より関西学院大学理工学部講師、博士(工学)。主に感性工学、コンピュータビジョンに関する研究に従事。Mimiz、gpのメンバーとして即興演奏を行っている。

濱地潤一 / junichi hamaji / Composer, Saxophonist /

サクソスを津上研太氏に師事。リアルタイムコンポジション、ブロックコンポジションによる即興処理作品など。2008年からサクソフォンとコンピュータの為に室内楽シリーズ、2009年より福島論との共同作曲作品《変容の対象》は現在も進行中。gpのメンバー。賞歴:文化庁メディア芸術祭審査委員推薦作品《変容の対象》

gp

飛谷謙介、濱地潤一、福島論により2015年結成。ギターを持つ楽器独自の特性、演奏する身体から音の趣向まで、ギターについての独自の考察を重ねていくプロジェクト。これまで飛谷謙介と福島論はMimizのメンバーとしてコンピュータを介在させた即興演奏の可能性を探り続けてきた。一方、濱地潤一と福島論は交換作曲組曲《変容の対象》や独自の室内楽で記譜可能な作曲方法の模索も続けている。3者にとってギターという楽器の意味する領域は同一なものではないが、それ故に改めて意識される観点を拡大していく新たな音楽的側面を発見していくことが目的の1つとなっている。2017年からは短編映像《Twill The Light》シリーズへの楽曲提供も開始した。通常は音データのやり取りによる在宅型の創作が基本的なスタイルだが、今回はメンバー3名が揃って演奏を行う。